

GUNMA  
HOUSING  
AWARD  
2019

# 観音山の家

〈 かんのおんやまのいえ 〉

優秀賞

設計者 有限会社 HIRO建築工房

施工者 阿部工務店



## CONCEPT

### 設計主旨

高崎駅周辺で、生活の利便性がありながらも日常生活において「周辺の山々や川や緑」などかかわりを持って、軽井沢などの別荘地にいるような生活ができる家を目指し土地探しが始まった。

そして出会った敷地。北から東、そして南へと広がる山や川、高崎市の街並み。小高くなったこの場所からはそれらが一望できる。また、風通しや日射条件もよく、特に西側は山で西日を遮ってくれるため、外部に対して安心して開放できる場所であった。設計当初、素晴らしい景色に対して建物を建てないほうが良いのでは？と思うことがあった。

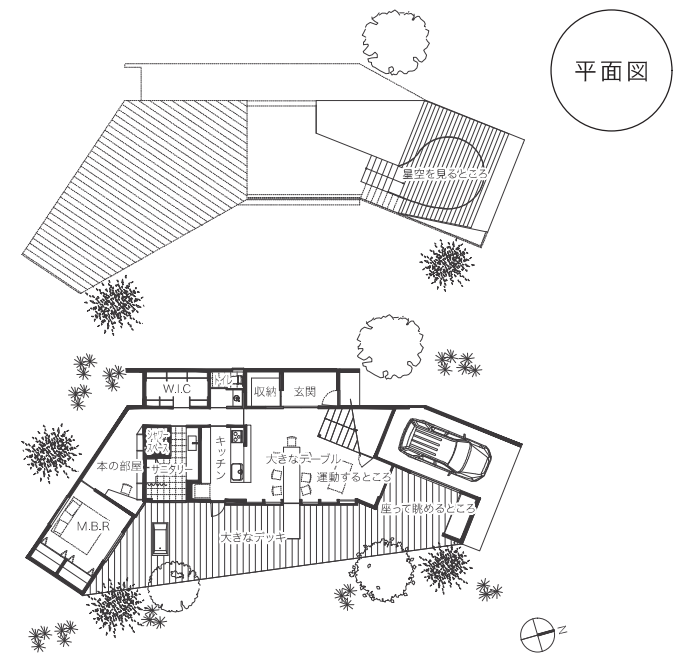
更地の状態でもとても気持ちの良い環境であった。しかし、何度もここを調査していくうちに景色に対して同じ場所でも見る人の高さを変えてことによって景色が変化することに気づいた。

この建物は単純に水平の大きな窓で室内と景色をつなぐのではなく、階段やスキップフロアー、屋上などを利用し、室内にらせん状に上部に向かう動線を取り入れることで、外部の景色が多様な表情に変えながら生活のアクセントになる構成を考えた。

プランの基本は、ワンルームのような大きな空間と寝室目的のプライベートスペース、水廻りとシンプルな構成である。大きな空間にはリビングやキッチンなどくつろげる空間であると共に、2階につながる空間である。上に向かって広がりながら幅の変化する大きな階段は、遠近法で2階への距離を短く感じさせワンルームを強調すると同時に、2階からは1階が遠く感じられ落ち着きある場所の演出となった。大きな空間から階段を上がり、2階へ。2階を折れ曲がりベランダを出て、屋外階段へとらせん状に上がっていく。この間、常に見える景色の方向と高さが変化することで多様な表情となる。

水廻りは、話し合いを重ね、動線を大切に計画した。入浴ではなくシャワースタイルを希望され、脱衣から洗濯、物干し取り込みと合理的な水廻りを実現した。奥には、広めの寝室。この寝室からは山々が

直接見える。さらに、外構計画もこだわり、周囲の緑と同調することで町の景色より良くする工夫。植えられた緑は、四季折々の変化を感じさせるとともに、作り出される日陰は、それぞれの居場所をや快適な室内環境をサポートする。



## REVIEW

### 講評

観音山の斜面、東南北に大きくカーブする車道が隣接し、眼下に高崎市街が広がる敷地に建つ。下からのアプローチでは大きく開放感ある窓と形態が、上からのアプローチでは伸びやかな屋根が特徴的な住宅である。1階はテラス、居間、キッチン、寝室がワンルームかのように連続配置されている。そして緩やかに2階へ屋上へと繋がる気持ちの良い変化に富んだ空間構成となり、そのひとつひとつが優れた眺望の外部と良い関係性を持つよう配慮されている。最優秀と五角の高い評価のもと優秀賞として選出された。

